イースター礼拝　　２０２２年4月１７日

「誰を捜しているのか」　ヨハネによる福音書２０：１～１８　　佐々木佐余子

現代の科学からすれば、死人のよみがえりという話は、多くの人々には信じられないとは思います。それは今の常識や頭脳で考えているからだと思うのです。けれど、今から２０００年も前に起こったことなので、その当時のことは、タイムカプセルにでも入って時代を逆戻りし、現場を把握しなければ状況が良くつかめないでしょう。しかし、主イエスをキリスト救い主として信じる者はやはり、聖書に聴く、学ぶ他はないのです。今朝は福音書を中心にして御言葉に学びたいと思います。

イエス・キリストの復活の証言はヨハネによる福音書以外、他の３つの福音書マタイによる福音書、ルカによる福音書、マルコによる福音書の全部に記されています。それだけ信憑性が高く最も大事な出来事として考えられているからなのです。ただ少しづつ記事が違っているのですが、それは間違いであったということではなく、ありのまま素直に誇張せず残しているからだと思うのです。そういう不思議なことを生身の人間が動揺もせず理性的に書くことは難しいぐらい、混乱があったからだと思います。

ヨハネによる福音書２０章１節を見ると「週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして墓から石が取りのけてあるのを見た」とあります。このマグダラのマリアはイエスさまから七つの悪霊を取り除いていただいた女性です。この女性はその後、主イエスが神の国を宣べ伝え、旅を続けられた時、何人かの女性たちに交じって御用をしていたのです。マリアは「石が取りのけてある」ことを早く弟子たちに知らせようとまずシモン・ペトロへ、またイエスの愛しておられたもう一人の弟子、この人は教会の伝統によるとヨハネだといわれていますが、走って行って彼らに告げたのです。2節にマグダラのマリアは「わたしたちは」と複数で言っています。けれど墓に行ったのは 1 人のはず。1節に「マグダラのマリアは墓に行った」と書いてあります。どうして複数になったのでしょう。他の福音書を読むと皆複数で書いてあるのです。マタイは「マグダラのマリアともう一人のマリア」ですし、マルコは「マグダラのマリア、ヤコブの母マリア」です。ルカは、名前は伏せ「婦人たちは墓に行った」とありました。いずれにしても複数で行ったのではないでしょうか。しかし、ヨハネはマグダラのマリアに焦点を当てて書きたかったのかもしれません。

「主が墓から取り去られました。どこに置かれているのか、わたしたちにはわかりません」その報告を聞いてペトロとヨハネが急いで墓に行ったのですが、ペトロより若いヨハネの方が先に墓に着きました。その頃の墓は、今とはだいぶ違います。皆さんもご存じだと思いますが、イスラエルは多くの洞窟があるのです。エルサレムは丁度死海の西側に位置し、ごつごつした岩肌の洞窟があると聞いています。この墓は弟子たちが用意したのではなく匿名のクリスチャンだったのです。弟子たちは隠れて逃げてしまいましたので、その後主イエスのご遺体を十字架からおろし埋葬しなければなりません。それは誰がしたのかというと

ユダヤ教の議員たちでした。アリマタヤのヨセフとニコデモでした。先週の木曜日は聖書研究・祈祷会がありまして、その話をしたのです。マタイによるとこのヨセフは金持ちでこの人もイエスの弟子であったと書かれています。ヨセフは、総督ピラトに遺体を渡してもらいたいと願い出たところ、ピラトは許可したのです。ヨセフは自分用の新しい墓に収めたとされています。ニコデモはファリサイ派の議員で夜、人に見られないようにこっそりとイエスに会いに行き恥を忍んで教えを請いました。ニコデモは教師だったのです。この人も匿名のクリスチャンなのでした。彼は没薬と沈香を混ぜたものを百リトラばかり持ってイエスの死体を受け取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従って亜麻布で包んだのでした。１リトラは３２６グラムですから１００リトラはその１００倍３２６００グラムで３２．６キログラムです。だいぶ高価だったでしょう。この二人がいなければ主イエスは囚人として乱雑に共同墓地に収められたでしょう。主イエスは生誕したときは家畜小屋ではあったけれど、亡くなった時は貴族用の墓に丁寧に埋葬されたのです。私はこの事実に本当に慰められます。ユダヤ教の信者でもこういう人もいるのですね。この「石が取りのけてある」のは、他の福音書では地震が起きて石が動いたからとされています。そして、丁度この場面を音楽家のＪ・Ｓバッハが作曲しました。石がゴロゴロと動く音を足鍵盤で再現し弾いているのです。

5 節に「身をかがめて中をのぞくと、亜麻布が置いてあった」のです。その亜麻布はイエスの頭を包んでいた覆いとは離れたところに置いてあったのでした。これも不思議ですね。どうして別々に置いてあったのでしょうか。それはイエスさまが幽霊のように抜け出たのではなく、体で、ボディで復活されたことを意味しているのです。9節に「イエスは必ず死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである」とあります。これはどこの箇所を言うのかと考えました。旧約聖書にはエゼキエル書の「枯れた骨の復活」の話がありまして、昔、ここをダークダックスが歌って有名になりましたね。一番わかりやすいのは、神殿を建てなおすお話ではないでしょうか。主イエスは言われました。「この神殿をこわしたら、私は三日のうちに、それを起こすであろう」 この話はヨハネによる福音書２：１９にあります。イエスさまが宮きよめをされたとき、ユダヤ人が言ったのです。「こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せてくれますか」と聞いた時、イエスさまはこうおっしゃったのです。主イエスはご自分の体のことを言われたのです。それで主イエスがよみがえった時、弟子たちはこう言われたことを思い出して、聖書とイエスのこの言葉を信じたとあります。けれど、空になった墓を見てペトロもヨハネも、聖書の言葉を理解していなかったのでした。

マリアは墓の外に立って泣いていました。もしかしたら誰かに持っていかれて捨てられたのかもしれない。どこかに隠されたのかもしれない。私の大事な主を。そう思うと涙が流れるのでした。そう思って泣きながら墓の中を見ると、白い衣を着た二人の天使が見えました。天使たちが「婦人よ、なぜ泣いているのか」と言うと、マリアは言いました。「わたしの主が取り去られました。どこに置かれているのかわたしにはわかりません。」こう言いながら後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えたのです。しかし、それがイエス

だとはわからなかったのです。イエスさまは言われました。「婦人よ、なぜ泣いているのか。誰を捜しているのか。」その時までマリアは園丁だと思っていたのです。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。わたしが、あの方を引き取ります。」この女性は本当に大胆な女性ですね。この時代の女性が遺体を引き取るだなんて。今と違ってこの時代の女性は数に入らず一人前とみなされていなかったのです。でもイエスさまはうれしかったでしょう。16 節を読むと、「イエスが『マリア』と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で『ラボニ』と言った。『先生』という意味である」とあります。そしてうれしさのあまり、すがりつこうとしたら、止められました。まだ父のもとへ上っていないのだから、と言われたのです。私が思うのに、イエスさまとマグダラのマリアはとても心が通じていたのではないでしょうか。他の復活の記事を読みますとマタイもマルコもマグダラのマリアは墓に行ったことが書かれてあり、ルカは、名前は伏せて「婦人たちは墓に行った」としています。この婦人たちはおそらくマグダラのマリアが入っていると思います。どの福音書もマグダラのマリアが最初に墓に行ったとされています。イエスさまが復活されて一番最初に現れたのは、マグダラのマリアでした。ベタニアのマリアでもなく、実母のマリアでもないのです。これは驚きですね。この時代身分の低い女性にご自身を最初にあらわされました。このことは女性にとってはうれしいことです。そして、マリアに大事なことをことづけました。１７節後半、「わたしの兄弟たちのところへ行って、こう言いなさい。『私の父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方のところへわたしは上る』と。」と言われたのです。ここで感じることは、イエスさまは「私の兄弟」と言われています。弟子たちをですよ、裏切った人たちをですよ。人間をまったく超越している言葉ではないでしょうか。マリアは主から言われたことを実行し伝えたのです。でも考えるにこれは簡単なことではありません。十字架に掛けられ血を流されて亡くなった人を今生きていると伝えることはどんなに難しいことか、笑われはしないか、疑われないか、でもマリアはこの目で見たことを伝えたのです。「わたしは主を見ました」と告げ、主から言われたことを伝えたのでした。

墓でマリアは最初自分の主がどこに置かれているのかわからず「あなたは誰を捜しているのか」と、イエスさまから聞かれたけれど、今はこの目で復活された主を見て確信し、弟子たちに伝えることができたのです。

考えると、主の復活がなければ教会も成立せず、キリスト教もなく、絵画もなく、素晴らしい音楽も生まれず、もちろん新約聖書もなくキリスト教文化もなく、どんな世界になっていたでしょうか。「あなたは誰を捜しているのか」「はい、イエスさまです」
イースターおめでとうございます。